

大鹿村 議会だより

第56号
令和8年1月号

令和8年1月15日発行



12月定例会

- 目次… P.2～3 条例制定・補正予算・選挙管理委員会委員選挙ほか
P.4 一般質問 リニア最前線地域の観光協会の果たす役割(加藤議員)
P.5 一般質問 入湯税について(松澤議員)
P.6 一般質問 塩の里食事処・塩の里の活性化について(宮崎議員)
P.7 下伊那北部ブロック議員総会・広域連合・議会報告会
P.8 議会活動・みんなの広場

12月定例会

令和7年12月大鹿村議会定例会が12月4日から12月15日までの12日間の会期で開催されました。今定例会に提案された議案等は報告2件、付議事件16件、議員発議2件で、すべて原案どおり可決されました。請願1件・陳情1件は採択されました。

報告

報告第1号 専決処分事項の報告

▶事故の損害賠償です。

報告第2号 令和7年度定期監査報告

付議事件

議案第1号 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例等の一部改正

▶期末手当の引き上げです。

議案第2号 一般職の職員の給与に関する条例の一部改正

▶人事院勧告に基づく給料表の改正、期末手当、通勤手当等の改正等です。

議案第3号 職員の育児休業等に関する条例等の一部改正

▶国の育児休業法改正に伴う、部分休業制度の拡充等の改正です。

議案第4号 災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正

議案第5号 大鹿村乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

▶0歳6か月から3歳未満の保育所等に通っていないお子さんが保護者の就労状況にかかわらず月10時間まで通園できる「こども誰でも通園制度」創設に伴う条例制定です。大鹿村では該当児童が少ないことから保育所の一時保育で対応します。

議案第6号 公の施設における指定管理者の指定の手續等に関する条例の一部改正

▶指定管理者の候補者の選定の特例を明記するものです。

議案第7号 大池高原マウンテンバイクコースの管理に関する条例の制定

▶地域振興事業施設としてマウンテンバイクコースが加わったため管理条例を新たに設けるものです。

議案第8号 令和7年度大鹿村一般会計補正予算(第3号)

▶桶谷橋の減、人件費の増などです。

議案第9号 令和7年度大鹿村国民健康保険特別会計補正予算(第3号)

議案第10号 令和7年度大鹿村立診療所特別会計補正予算(第3号)

議案第11号 令和7年度大鹿村介護保険特別会計補正予算(第2号)

議案第12号 令和7年度大鹿村後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)

議案第13号 令和7年度大鹿村簡易水道事業会計補正予算(第2号)

議案第14号 大鹿村選挙管理委員会委員及び補充員の選挙

▶任期満了による大鹿村選挙管理委員会委員及び補充員の議会による選挙が行われ、次の方々が当選されました。

選挙管理委員会委員

| | | |
|-----|----|----|
| 委 員 | 中山 | 一寛 |
| | 福沢 | 良紀 |
| | 岡村 | 都 |
| | 湯澤 | 信行 |

| | | |
|-----|-----|-------|
| 補充員 | 1 番 | 片桐さが美 |
| | 2 番 | 森 菊枝 |
| | 3 番 | 池田 学 |
| | 4 番 | 風間光太郎 |

議案第15号 大鹿村道路線の廃止

議案第16号 大鹿村道路線の認定

▶村道桶谷線の桶谷橋を廃止し、桶谷橋を除いた区間を起点と終点を入れ替え新たな村道北条線として認定するものです。

請願・陳情

- 「再審法改正の早期実現を求める意見書」の採択を求める請願書▶採択
- 診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬10%以上の引き上げを求める陳情書▶採択

議員発議

発議第1号 再審法改正の早期実現を求める意見書

発議第2号 診療報酬・介護報酬及び障害福祉サービス等報酬10%以上の引き上げを求める意見書

総務社教常任委員会

教育委員会

Q文化施設修繕費として50万円の補正予算の内容は？

A松下家の奥の部屋の畳の張替え費用です。

県教育委員会の文化財パトロールの方に畳の修繕をとのご指摘をいただき、張替えをすることになります。

Q松下家は、村民がイベント等で使用できますか？

Aできます。以前、クラシックの弦楽演奏会やにこにこ集会などで活用していただいたこともあります。

意見今後も有効活用していただきたいと思います。

住民税務課

Q空き家バンクを見て住宅を希望されて来た方への、村の対応が悪かったという

声をいただいたので、失礼のないよう対応マニュアルを作っては？

A今後検討します。

産業建設常任委員会

1. 大池高原マウンテンバイクのコースの管理

Q上りコースはどうなっていますか？

A現在工事を行っていますが、来年の夏頃になると思います。まずは下りコースのみで管理者に委託したいと思います。

Q熊の出没について、指定管理者が対策をとるのでしょうか。村がやらなくてはならないのでは？

A既存施設でキャンプ場もありますし、大池の観光施設もあるので、何らかの対策を取らなければならないと思います。

Q事故が起きた場合の補償は？

A対人の場合は自転車保険で、コースを毀損した場合は村の保険で、指定管理者が決まれば指定管理者に管理していただきます。

Q指定管理者が決まるまでは利用しない方がよいのでは？たまにお披露目で計画し、進めていった方がよいのではないかと。

A検討します。



2. 熊対策について

Q熊対策について、ゾーニング等、県で言われているが、村ではどう考えていますか。

A現在ゾーニングを検討していますが、本村の場合、家のすぐ裏が山林等で、緩衝帯を全村に作るのが難しい。猟友会とも話をして方策を考えたいと思います。

産業建設課に移行後の大鹿村観光協会

リニア工事最前線での観光協会の果たす役割



加藤哲夫 議員

質問 大鹿村観光協会が産業建設課に移行しました。移行によって変化はありましたか。道の駅と塩の里の利用者数、あるいは売り上げの実数を教えてください。

過日SNS活用研修会で、SNSを活用したビッグデータ利用の的確さを勉強しました。ぜひ取り入れていただきたい。

村長 取りやめてしまった事業というのは特にございませぬ。優先度に応じて継続的に実施しております。

観光客の入り込み数は、把握できる各観光施設の利用者数を足した数字で、令和元年から13万6000人、10万9000人、11万2000人、12万4000人、12万6000人、12万5000人となっています。道の駅の令和6年度の総売上額は前年比108%と伸びておりますが、経営状況は非常に厳しく、黒字化はできていない状況です。塩の里の直売所の利用者数は令和元年1万2600人が、令和6年では8900人と減少しています。

ビッグデータの活用については今後の課題です。

リニア工事最前線地域での大鹿村観光協会の果たす役割について

質問 第36回のリニア連絡協議会では何一つ質問は出ませんでした。JR東海は10月11月の祝日を発生土運搬ありに変更しました。この変更に合わせてくださいと言えたのでは。

村長 祝日運搬車両運休の要望については、工事進捗に影響を及ぼすので、運休することはできないとの決定でした。今後の観光協会からの要望については継続して対応します。

質問が出なかったというのは、低調ということではなくて、大きな変化がなく、質疑等がなかったのではないかと判断しております。

質問 観光協会に各種団体の連絡調整の役割がある以上、協議会に発言可能な観光協会員の席がないのは問題があると思います。大鹿村リニア連絡協議会のメンバーの再考が必要ではないでしょうか。

村長 リニア連絡協議会の体制については規約に基づいて運営されております。リニア連絡協議会に参加できなくても、事業者が直接意見を述べる場を確保しています。

質問 3月の定例会での答弁で、「観光振興につながる協議会を別途立ち上げる方向で」JR東海さんと検討を進めているところ」とありました。12月11日に予定されている懇談会がそれに当たるのでしょうか。わたしは別物と考えていますが。

村長 住民の皆さん、観光協会事業者の皆さんのご意見を集約する場は設けています。直近では12月11日観光協会員、JR東海、県、村との懇談会があります。他にもリニア事業を地域振興にどう結びつけるかという協議の場も設けています。

その他、自治会活動のなかで、意見を上げていただきたいと考えております。

申告税である入湯税について



松澤武裕 議員

質問 申告税である入湯税ですが、村内において申告義務のある温泉を利用している事業者は現在2事業所です。9月議会において令和6年度決算認定をされ確定した金額について、昨年以前の申告金額と同額となっています。この入湯税について村長は当事者としてどのようにお考えかお聞きしたいと思います。

村長 「当事者として」という言葉がありましたが、事業主としてということであれば、この場での発言は差し控えさせていただきます。村長として、お答えをさせていただきます。

入湯税については議員がおっしゃられたとおり申告による納税をしていただいております。以前に比べて営業者数が減っており、現状2件の納税がありますが、鉱泉浴の施設営業者の皆さんがそれぞれの実績により件数に応じて税額を報告し、納入をしていただいていると把握しております。

質問 申告の総額を入湯税の150円で割りますと、2つの事業者で年間640人ほどの方が宿泊しているという数字になります。この数字を過去の確定している金額で調べていきますと、リニア事業が始まる以前からの申告金額と同額のように思われます。ということは、入湯税を納めている宿泊施設においては、リニア事業が始まる以前、リニア事業が今継続している中、令和6年度までの宿泊者等について、影響が出ていないという数字となります。今までリニア関係において、影響が出て

いるというお話がだいぶ出ていましたが、こういう数字の確定した中で、影響がないということになってしまいます。この関係をよく検討していただき、これは村の申告ですので、疑うわけではありませんが、村長の方から先に立って調べていただきたいと思います。

村長 入湯税の納入にあたっては、事業者の皆さんの事務負担等さまざまある中で、現状の対応をさせていただいているわけですが、いただいたご意見に従いまして、また事業者の皆さんと協議をさせていただいて、今後も適切な対応が取れるように周知等していきたいと思っております。

質問 県の方で来年6月から宿泊税を徴収するといわれています。このことが入湯税についても関わり合ってくる、同人数になると思います。ですので、来年度の税の徴収等についても一緒に考えていかないと、またおかしなことになると思いますので、村長として、しっかり考えていただきたいと思います。

村長 ただいまご指摘いただきましたように、宿泊税が導入になるということで、これも今、事業者の皆さんからいろいろ意見集約をして、県の方でどういう運用をするかということを検討していると伺っております。また、そういったところでどういう立て付けになるか、そこら辺も今、注視しているところです。そことうまく連動できるかどうか、村としても研究をしていきたいと考えております。

塩の里食事処出店者募集について

塩の里全体の活性化について

宮崎純平 議員



質問 塩の里食事処は出店者を募集していて、先日応募締め切りでしたが、申込みは何件ありましたか？

村長 期限までに正式な申し込みをされた方はおられませんでした。

質問 営業許可は取得せず、料理のワークショップを開催したり、作った物をその場で食べたりできるような、シェアキッチンの簡単なやり方があります。後継者が見つかるまで、既存施設をコミュニティスペースとして有効活用できないでしょうか。

村長 公募期間中、問い合わせがあり、近いようなご提案等もいただいております。広く交流できる場、関係人口創出の場、あるいは人材育成の場というような意味合いも含め、門戸を広げて再度公募を行いたいと思っています。

塩の里全体の活性化について

質問 山の塩水を活用して、人、物が交流する、塩の里を目指して前進していただきたい。村長の思う令和版塩の里構想をお聞かせください。

村長 地元農産物活用のための施設ということで、鹿塩地域に産出する塩の塩泉の魅力を生かすために「塩の里」という名称で施設が整備されました。当時は直売所で実際に製塩などを行っていましたが、営業者の変更などに伴い、現在の施設となっているわけです。

塩の里の施設を将来的にどう位置付けて持続させることができるかは、大きな課題の1つと認識をしています。さまざまな可能性を視野に入れ、施設のあり方を今後検討してまいりたいと思います。

質問 村民や観光客が塩水を汲むことができたり、塩水とふれあえるような簡単な小規模設備を整えていただくことはできないでしょうか。

村長 現状で塩の里付近に、3か所源泉がありまして、現状個人の所有物であって、現在も実際に管理運営をされております。源泉を分けてもらえる場合もあるかと思いますが、やはり所有者の方と交渉し、同意を得ることが必要になるかと思うので、具体的な計画を持って、所有者の方と交渉するということが必要になってきます。

もう1か所、入谷地区にある塩壺ですが、国交省による砂防施設建設時に湧出したものでありまして、国交省の管理により一般開放されている所です。引湯施設の老朽化で源泉がうまく汲めなかったり、案内看板が破損している状況でしたが、このほど国土交通省により、源泉や案内看板とも再整備するという方針を示していただいております。それが復活後は、また以前のように活用できるのではないかと期待しているところです。

意見 現在、鹿塩温泉は日帰り入浴ができない状態が続いています。近い将来に大鹿村で鹿塩温泉日帰り入浴ができる日を願っています。ご検討よろしくお願いします。

下伊那北部ブロック議員総会

(松川・高森・喬木・豊丘・大鹿)

11月25日に下伊那北部ブロック町村議会議員総会が豊丘村で開催されました。総会前の研修会では、豊丘村内のリニア発生土を活用した道路拡幅改良の様子などをバスで回って見学しました。



バスの車窓から見た喬木のリニア高架橋

総会では、9月に正副議長で行った県への要望活動の報告が行われました。

大鹿村からの要望事項は、「介護等職員の人材確保について」と「主要地方道松川インター大鹿線の防災事業の推進及び国道152号の通年通行の実施について」の2点です。

介護等人材の確保・定着については、県でも総合的に取り組んでいる、介護等職員の賃金が全産業平均と比較して約8万円の差があるが、まずは国が介護報酬で対応すべきであり強く要望している、処遇改善加算取得に向けての支援を行っている、養成校の充足率が6割程度であり、PR事業や修学資金の貸付等を行っている等の回答がありました。

松川インター大鹿線、西下トンネル大鹿側の狹隘箇所拡幅については、令和6年度から詳細設計を実施、7年度は支障となる光ケーブル移転補償を実施予定。国道152号地蔵峠の抜本的な対策については、調査に着手したところで、引き続き調査を進めたいといった回答がありました。

※中部伊那での要望項目も同じです。

南信州広域連合議会

- 飯田創造館にかわる文化芸術活動支援施設として整備された「はにかむベース」が5月1日からスタートしています。
- 広域消防の高森消防署の移転新築工事が進められています。2月に竣工、4月から新しい消防署になります。
- 広域消防の遠隔地対策として、4月から広域消防の職員1名が大鹿村役場に派遣されます。消防・救急などの知識を持った職員がいち早く現場に駆けつけることから実質的な現場到着時間の短縮を図れることが期待されます。また役場において消防防災分野の補助的業務、消防団との連携強化や地域防災力の充実、災害に関する役場と消防の連絡調整等行っていただくそうです。

議会報告会について

11月16日・17日と議会報告会を開催しましたが、参加者は両日合わせて3人だけでした。少人数のため報告というよりも懇談が主となりましたが、両日とも喫緊の課題である熊対策が話題となりました。また、道の駅に農産物を出す際の負担軽減を求めるご意見、日帰り温泉施設について慎重な検討を求めるご意見等いただきました。

今後の報告会のあり方、報告会を含めた村民の皆様のご意見をお聞きする場の持ち方について、改めて検討する必要がありますと考えているところです。その1つとして、自治会や各団体、住民グループなどに、ご都合の合う時にこちらから出向いて、懇談の機会を作ってまいりたいと考えています。ぜひお声がけください。

10～12月の主な議会活動

- 10月2日 中部伊那正副議長会
- 10月4日 小学校運動会
- 10月5日 大西公園桜の手入れ
- 10月6日 三遠南信サミットin南信州
- 10月12日 村民運動会
- 10月16日 活性化プロジェクト委員会
- 10月16～17日 広域連合議会視察研修
(輪島市奥能登広域消防・小松市)
- 10月19日 大鹿歌舞伎秋の定期公演
- 10月21日 下伊那北部事務組合議会
戦争犠牲者追悼慰霊祭
- 10月24日 全員協議会
- 10月25日 塩川床固工群完成式
・鹿塩川溪流保全工着工式
- 10月26日 全村環境美化運動
- 10月27日 育林祭
- 10月28日 租税教育推進協議会
- 10月30日 県議長会総会(長野)
- 10月31日 議員研修会(下條村)
- 11月5日 SNS活用研修会
- 11月9日 産業文化祭
- 11月11日 国民健康保険運営協議会
- 11月12日 町村議長会全国大会(東京)
- 11月14日 広域連合議会(～28日)
- 11月16・17日 議会報告会
- 11月17日 下伊那北部女性議員視察研修
(松川町有機給食)
- 11月22日 まめ大福お楽しみ会
- 11月25日 全員協議会
下伊那北部ブロック議員総会
- 12月4日 12月定例会(～15日)
- 12月7日 福祉と健康の集い
- 12月12日・19日 議会だより編集会議
- 12月16日 竜水園連絡協議会
- 12月18日 リニア連絡協議会
- 12月22日 産業文化祭反省会



北の原：池田 かや さん

大鹿村へ移住前は
言語聴覚士として病
院や訪問看護ステー
ションで働いていま
した。言語聴覚士は、
子どもから大人の方
の「話すこと・食べ
ること」でお困りの方に対して支援をす
るリハビリ職です。



現在は、保健福祉課を拠点に、まめ大
福やデイサービスにて、お口や食事の評
価・相談、健康講座で誤嚥予防の体操を
お伝えしたりしています。また、乳幼児
健診では、ことばの発達や離乳食の相談
を受けています。大鹿村広報に「こと
と通信」も連載していますので、のぞい
てみてください。

お茶を飲むとムセるようになった、脳
卒中の後遺症でことばがうまく話せな
くなった、言語聴覚士って具体的に何す
の？など、気軽にお声がけいただけたら
嬉しいです。

編集後記

新年おめでとうございます。昨年は全国的に熊の出没や被害がニュースになり、村内でも被害がありました。大鹿は山の中で対策も難しいですが、何とかうまくすみ分けて、村の皆さんが安心して暮らせるようになってほしいものです。

新年が村民の皆様にとって幸多い年となりますよう、お祈り申し上げます。

議会は来年改選となります。皆様に関心を寄せていただけるよう、より一層、広報広聴活動に力を入れてまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

<タイトル文字> 齋藤絵美理

<議会だより編集委員会> 河本明代・田代久夫・伊波ゆかり・松澤武裕・宮崎純平